学労ネット高槻
かわらばん

2021年 8月＊最終号　VOL 150　2021, 8. 14

編集 :学校労働者ネットワーク・高槻 ／ 569-0082 高槻市明野町５－１６－４０３
http://www.jca.apc.org/gakuronet-takatsuki/
e-mail　isao_m@jca.apc.org

組合解散にあたって

学労ネット・高槻　執行委員長　松岡　勲

学校労働者ネットワーク・高槻が発足したのは１９９９年４月２５日でした。連合移行後体制内化した日教組（高槻市教組）を脱退し、７名で自立労働組合として学校労働者ネットワーク・高槻を結成しました。

結成大会後直ちに職員団体登録、団体交渉権を確立し、高槻市教委交渉に入りました。労働時間等の勤務条件改善に関する要求を私たちの手で市教委にぶつけ、自らの力で一歩一歩要求を実現できることに喜びを強く感じました。また２０００年の卒業式から「日の丸・君が代」が導入されようとしており、高槻で「日の丸・君が代強制にの反対する市民の会」を結成し、市民とともに反対運動を開始しました。

２００２年８月に全国学校労働者交流集会を高槻で開き、各地域で自立した教育労働運動を続けてきた仲間が集まり、教職員の勤務条件や権利獲得に関する闘いの交流、各地の闘いの蓄積（勤務条件に関する措置要求や裁判闘争の方法、労働法の学習）に学ぶ大変いい機会でした。また集会とあわせて全学労組実行員会による高槻市教委交渉が実現し、休憩時間と勤務時間の明示を勝ち取りました。さらに２００３年春から組合役員による校長交渉を要求し、組合員のいる職場で取り組みを開始しました。そのなかで竹下柳川中学校校長が交渉を拒否しましたが、全学労組各組合よりの校長への抗議、市教委への糾弾活動を集中し、ついに校長交渉実現を勝ち取りました。校長交渉はその後の学労ネット・高槻の作風となりました。

２００４年から２００９年まで弁護人なしの本人訴訟として休憩時間裁判を取り組みました。最終的には最高裁で敗訴となりましたが、その成果は私たちのなかに休憩時間や勤務時間に関する認識を確かなものにし、その後の超過勤務反対闘争の武器となりました。組合の最後の時期に課題となった変形労働時間反対闘争のベースにもなりました。君が代反対闘争では２０１２年３月の卒業式で学労ネット組合員４名に対して斉唱時の起立を命じる職務命令が出され、山田肇組合員に対する懲戒処分がなされました。その後山田組合員への処分取り消しを求める人事委員会闘争（２０１４年３月に処分取り消しの一部勝利、再任用処分取り消しについては棄却）、２０１４年から２０１９年まで山田組合員をふくむ君が代不起立処分者の裁判闘争を支援してきまし

た。（２０１９年２月最高裁で敗訴）

２２年間の組合運動のなかで、２０１１年５月に家保達雄組合員、２０１９年３月に組合結成の初期から私たちを支えていただいた増田賢治特別執行委員の逝去という悲しい出来事がありました。最後になりましたが、今まで組合活動を続けて来られたのは支援していただいた方々のおかげであると痛感しています。

（２０１９年　５月　組合大会）

発足当初は若かった私たちも歳をとりましたが、力の続くかぎり、違った領域での社会活動と自己実現を目指して行きたいと思います。これまで学労ネット・高槻を支えてくださったみなさまに深く感謝をします。

学労ネット・高槻◆小史

１９９９年　４月２５日　組合結成

２００２年　８月　全国交流集会 in 高槻
２００３年　竹下校長追尾事件

２００４年～０９年　休憩時間裁判

２００４年　松岡勲さん退職 ビックリパーティー実施

２００５年　趙博さんライブ「ホタル」 於 マサラバザール
（学労ネット７周年記念。堺・教育自立労働組合の藤原正文さんを追悼して。）

２０１１年　春名正博さん岡山へ（同年 春名さんに会いに岡山へ GO ！）

２０１２年　５月 家保達雄さん逝去
組合員４名に職務命令が出る。
山田肇さん不当処分　人事委員会に不服申し立て（～２０１４年）
君が代不起立裁判（２０１４年～１９年）

２０１６年　中村保彦さん、学労ネット加入。

２０１９年　３月 増田賢治さんご逝去
４月 島野正通さん、特別執行委員に就任

２０２１年　７月２５日 学労ネット・高槻 解散

解散式の日のゲストより
メッセージを頂きました。

（あいうえお順）

学労ネット・高槻へのメッセージ

一色　若夫
元.堺・自主教組組合員

私にとって「職場生産点からの闘い」程、難しくてしんどい事はなかった。孤立はするし、際限なく妥協はするし、その繰り返しでした。

そんな中で「学労ネット高槻」の仲間の闘いは、一貫して職場闘争を基本とし、労働者性を獲得しようとする組合運動であったと思っています。あいまいであった勤務時間をはっきりさせ、休憩時間を獲得する闘い、また「日の丸・君が代」反対の闘いを校長・市教委交渉、裁判闘争はと今日に至るまで粘り強く闘ってきている姿は、私の「気持ち」を支えるものでした。

そんな事を思いながら、解散式の場に居ました。

とりあえず、ご苦労様でした。今後共よろしくおつきあいの程お願い致します。

２０２１，８，１

すべての労働組合が引き継がなければならないこと

サポートユニオン withYOU
事務局長　島野正通
（特別執行委員）

この７月に学校労働者ネットワーク・高槻が解散した。

彼らの数々の教育労働を追想にしてはならない。けっして大きいと言われるような労働組合ではなかった。たくさんの成果を上げた労働組合でもなかった。

しかし、毎年、組合員が働く学校職場の管理職に要求書を提出し、校長と教頭が出席し交渉を行い、一つひとつ問題点を追及しとりわけ勤務時間について法令を遵守させ改善を求め実現させていくスタイルは過去のものとして終わらせてはならない特筆すべき運動だ。この解散特集かわらばんに目を通されるすべての仲間は、学労ネット・高槻の分会交渉スタイルを引き継がなければならない。

北部大地震の際、子どもの安全安心のために教職員が送り迎えに勤務時間を超えてでも努力しているにもかかわらず、高槻市や学校の安全対応などが遅れている無責任の中、職場の多くの教職員の不満が溜まっていることを管理職に伝え理解させ改善させていった。このことにみられるように、すべての組合員の学校を訪問し行われる分会交渉は労働組合で引き継いでいかなければならないことだと思う。

２０１９年３月に鬼籍に入られた特別執行委員をされていた増田賢治さんが、サポートユニオン withYOU の事務所に立ち寄られ「行ってくるわ」とおっしゃって、学労ネッ

ト・高槻の会議や分会、高槻市教委交渉に楚々として出向かれていたことを思い出す。そのあとの仲間との酒宴も楽しみにされていたのだと思う。亡くなられた後、恐れ多くも私がその任を引き受けたのだが十分なことができず申し訳なく思っている。

長い間、運動をすすめられてこられた多くの方々に慰労の意を表したい。

学労ネット・高槻へのメッセージ
僕の「青春」に大きく影響した学労ネット・高槻

高橋　秀明
兵庫県自立教育労働者組合

２０００年に兵庫県自立教育労働者組合神戸市支部（神戸市自立教育労働者組合）結成以来、全学労組の中でも最も深いお付き合いをさせてもらったのが高槻の皆さんです。

相互の総会・大会へのゲスト派遣はもちろん、同じ関西隣県・隣府の組合として常時情報交換をしながら共にしなやかで楽しい、そして果敢な組合活動を担ってきたものと自負しております。

松岡さんの勤務校へ当時の増田全学労組代表とともに乗り込んで交渉をしたり、府教委相手の裁判でその対策チームに毎回参加させてもらったり、まさに今に続く僕の「意気揚々」とした組合活動の「青春」（今もですよ。）の肥やしにさせてもらってきました。

組合組織としてはついに終了、否完遂となってしまうわけですが、今後も命続く限り変わらぬおつきあいをさせていただきたいと思います。

よろしければ兵庫自教労連の総会にも「高槻の闘う仲間」としてゲスト参加をお願いすることもあるかと思いますがどうぞよろしくお願いします。

僕の方も、どんな口実であっても呼んでいただければ嬉々として高槻界隈に登場いたしますのでどうぞよろしくお願いします。

ほんとうはこの言葉は言いたくはないのですが、とりあえず長年の闘いお疲れ様でした。

家保さんが亡くなった年の
組合大会で（２０１２年）

僕も労働運動がしたかった…。

浪花の歌う巨人・パギやん（趙博）
（特別執行委員）

学労ネットが結成された 1999 年は、僕にとっても記念すべき年でした。義父が亡くなった（5 月 5 日）こと、それから、光州闘争後の「韓国民衆文化運動」に学んで 80 年代から続けてきた民俗音楽やマダン劇の活動にウンザリして（その理由は割愛します）、「自分のやりたいことをやろう」と初めてのソロ・ CD アルバム『ソリ・マダン（うたの広場）』を発表したのも同年でした。大先輩の松岡勲さんから「新しい組合を立ち上げる。趙さんには特別執行委員で参加して欲しい」と乞われたとき、そんなことが可能なのかと小躍りせんばかりに喜びました。というのも、 70 年代後半期学生運動出身の僕は「教育労働者になって、在日の生徒達や被差別の側にいる児童・生徒・若者と共に生きていこう」と決意して、大学院に進学したのも「現場に行く前にしっかり勉強して」おきたかったからでした。ところが、その決意は簡単に揺らいでしまって、結局は大学に残る羽目になったのです。非常勤講師だけでは食えないので、河合塾でバイトをしながらの 8 年間でしたが、これとて、後者の方が生活の主軸になって、 20 年務め上げました。その間も、僕はずっと「組織労働者」という生き方に憧れていました。それは遂に果たせずじまいで、今はしがない芸人となりはてて、おそらく死ぬまでこの稼業を続けることになるでしょうが「教育労働者、組織労働者」、つまり「プロレタリアート」のエトスだけは持ち続けたいと思っています。学労ネットの皆さんと一緒にいるとき、僕は「プロレタリアートごっこ」をしていたのかも知れません。そんな我が儘を 22 年間も許していただいたことに深く感謝しつつ、「有終の美」の後塵を拝することができたことを我が身の誇りといたします。

感謝・深謝・多謝！

◆追　想　増田　賢治さん（特別執行委員）

増田さんには、１９９９年結成の年から、お亡くなりになった２０１９年まで大変お世話になりました。結成日の写真を増田さんに撮って頂きましたが、その時の嬉しそうなお顔を鮮明に覚えています。

増田さんには、初めから入院される前年まで、校長交渉、市教委交渉にすべて出席していただきました。 市教委交渉は年３回、各組合員の定期的校長交渉も合わせたら、おびただしい回数です。その中でも、映画のように鮮明に覚えているのは、松岡さんが勤務した柳川中学校・竹下校長との交渉でした。

最終的に市教委も「交渉しなさい」と校長を指導、交渉当日は、増田さん、兵庫の高橋さんも駆けつけて下さいました。

校長室。息詰まる押し問答の末、観念した校長はとうとう「３人以上とは交渉しない」と言い放ちました。

すると、増田さんはすました顔で、「じゃ、ぼくが（外に）出ますわ」とおっしゃいました。その場に居合わせた全員が「へ？」と固まってしまいましたが、増田さんの奇襲（？）作戦のおかげで、無事交渉は終わり、その後の学労ネットの校長交渉もすべて結果良好に終わることになります。

合結成日に。（増田賢治さん撮影）

「あの時は、『一休さん』みたいにピーンとひらめいたんや」と、増田さんは、お酒を召し上がりながら楽しそうにおっしゃっていました。

私が増田さんから教えて頂いたことはたくさんありますが、正面から敵を押すだけでなく、意表をつく作戦も大事であること。そして、ともに闘うなかま、ともに生活する弱い立場のひと達と連帯することを、身をもって教えて頂いたと思っています。私のこれからの人生の中でその恩返しができればと思う毎日です。

（長谷川　洋子）

◆家保さん、家ちゃん、イエティ、家やっさ～ん！

家保さんは『学労ネット・高槻』結成前から一緒に話をしてきた仲間の一人でした。口数は多くなかったですが、深い思いとこだわり、緻密な読み、確かな裏付けを持ち、大きな存在感がありました。組合結成から14年間、共に歩んできました。病気がわかった後も、さまざまな治療法を調べ、実践し、“生きる”ことに前向きでした。しかし、2012年5月、多くの友人たちと緩和病棟で最後の時間を過ごし、旅立たれました。精一杯生きてこられたことは理解しながらも、一緒に組合を立ち上げ、思いを共有してきた仲間がいなくなることは、とても悲しく悔しい思いでした。

家保さん、といえば「お酒」と「猫」でしょう。無類のお酒好きで、しこたま飲んだ後に「もう一軒行きましょう。」と叫んでいました。お酒にまつわる武勇伝？には事欠きません。また、猫さん（家保さんはそう呼んでいました）が大好きで、お家には8匹の猫さんが同居していました。組合紙『かわらばん』には、“我が家の猫事情”というコラムが9回連載されています。猫さんが大すき、かわいくてしょうがない思いがあふれています。亡くなる前には、猫さんたちの行き先をみつけて託しておられます。

今年の5月、家保さんのお墓にお参りしてきました。例年は家保さんのお姉さんと組合メンバーでお参りしていましたが、新型コロナ感染が広がり集まって行くことができていませんでした。高槻から西国街道を歩き、島本町のお墓まで約1時間。お墓に組合が解散することを伝えました。「ウゥ～、どうにかなるでしょう。」という家保さんの名台詞が聞こえてくるような気がしました。

いつまでも私たちの心の中で生きて、元気づけてくれている家保さんです。

（末廣　淑子）

サプライズな人生をありがとう

末廣　淑子

私は小学校教員として再任用を含めて四十数年間働き、その後半半分を『学校労働者ネットワーク・高槻』組合員として過ごしました。組合結成時の写真を見ると、メンバーのステキな笑顔の瞬間が写っています。この時から、想像もしていなかった人生のサプライズシナリオがスタートしたのだと、感慨深く思い出されます。

それまで日教組組合員として、提起された闘争に参加し、順番かなと思えば分責などの役をし、「思ったことがあったら誰かと同じでも、分からないことやおかしいと感じたことでも、自分のことばで発言しよう。」と思いながら普通に（？）過ごしていました。ところが主任制度、日の丸・君が代、「障害」児教育などの方向性に違和感を持つことが増え、組合が体制側の動きと連動するようなかたちでブレーキをかけたりするようになりました。そんな窮屈な状況の中で「おかしい！」と感じた仲間と出会い、意見や情報交換を続けるうちに、組合を辞める、という結論に達しました。　その後、もう組織はいやだという思いで数年経ちましたが、校長との１対１のやり取りに消耗し、上部組織のない新しい組合を作ろうと声をかけてくれた仲間と一緒に『学校労働者ネットワーク・高槻』を立ち上げました。『かわらばん』合本を読み返すと、その当時のメンバーの元気で希望に満ちた思いがとてもキラキラとして新鮮でした。

市教委交渉、休憩時間裁判、校長交渉、全学労組集会など、いろいろなことを経験できました。校長交渉は目の前の課題、明日からの働き方を変えていくということで、充実感と楽しさがありました。休憩時間裁判は、これこそ究極のサプライズイベントで、全く未知の世界に飛び込んでいく怖さと面白さがありました。あっぷあっぷ状態の中、たくさんの方々に力をかして頂きやり切ることができました。

最後になりましたが、私のサプライズな人生、２２年間の組合活動を支えて下さったたくさんの方々に感謝です。

ありがとうございました

学労ネット・高槻は、２２年の生涯を終えます。

長谷川　洋子

まず、最後の１年、真田和代さんのお陰で組合活動を続ける事ができました。真田

さんに心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。
　２０１６年に作成した「かわらばん合本」を久しぶりに読み耽りました。２２年間、なんと私は豊かな人生を送らせてもらった事でしょう！
　今も鮮やかに甦る一日があります。２００５年１１月、結成７周年記念、そして、堺・教育自立労働組合の藤原正文さんを偲び、趙博さんに「歌うキネマ・ホタル」を上演して頂きました。場所はマサラバザール。お客は超満員でものすごく集中して趙さんを見入っていたこと。上演後、趙さんが「今年の５本の指に入る出来映えでした」と言われたことが鮮明に残っています。

　職場でひとりの組合です。一人でできることは限られていました。
　・会議が勤務終了時刻を越えた時、毎回校長さんに「会議が超過した分、どうしたらええんですか？」とひつこく言い続け、校長に「後日振り替えて下さい。」といちいち言わせたこと。
　・最後の年まで自宅研修をとり続けたこと。（**自宅研修・・「教育公務員特例法」第２２条の２「教員は授業に支障のない限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。」戦前のように教員が「上」から言われたことに唯々諾々と従うことなく、自らの考えに立脚できるように、昭和２４年に制定され今に至っている。**）
　この２つが、私のこだわりでした。若い同僚たちが、「帰りやすい職場になった」と言ってくれた時、めずらしく充実感を感じました。
　これも、毎年の校長交渉の中で、ご多忙な島野さん、そして増田さんにおいで頂き、学労ネットのなかまに駆けつけてもらって築き上げたものやと実感しています。学労ネット、そして全学労組のみなさんに助けて頂いた事が何にも代えがたい財産となりました。
　学労ネットは、２２才の生涯を終えます。ですが、連帯する気持ちと根性を、一生失わないつもりです。また新しく連帯する場所を探し出せたら・・と夢見ています。どうかこれからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

　最後に２２年の長きに渡り「学労ネットかわらばん」におつきあい下さいました皆様、本当に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

解散式の日　（２０２１年７月２５日・撮影は一色若夫さん）